

【日時】 平成24年12月19日(水) 16:30~18:30

【参加者】

広域連合長(大町市長)	牛越 徹 (議長)
副広域連合長(白馬村長)	太田 紘熙
副広域連合長(小谷村長)	松本 久志

(行政関係者)

大町市民生部参事	勝野 稔
白馬村環境課長	丸山 勇太郎
小谷村住民福祉課長	横澤 勲

(事務局)

広域連合所長	宮坂 佳宏
--------	-------

【議事の概要】

1 開 会

(事務局)

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより第10回北アルプス広域連合一般廃棄物処理施設建設予定地選定会議を始めたいと思います。それでは、牛越議長からご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(議長)

第10回北アルプス広域連合一般廃棄物処理施設建設予定地選定会議の開会にあたりまして、ひとことご挨拶申し上げます。まず、先日第9回までに熱心なご協議をいただいていることに対し、心から感謝を申し上げますとともに、事務局あるいは3市村の担当課長の皆さんに様々な調整をいただいておりますが、なかなか結論に至っておりません。さて、3市村が協力し合い、そして広域連合で取り組むという広域処理の原点に立ち返りまして、廃棄物の減量化と適切な処理を進めていくこと、その結果として、循環型社会をより一層推進させるという大きな使命が選定会議にあることを痛感するわけでありまして。我々3人が、首長として責任を持ち、間違いの無い判断を進めていくことが何よりも重要であると、改めて責任の重さを痛切に感じます。これまでに引き続き、本日の選定会議でしっかりとご協議をいただきまして、意見集約を図った上で結論を導き出してまいりたいと考えております。本日は誠に重要な会議となるかと思っておりますので、よろしく申し上げます。

3 協議

(1) 建設予定地の絞り込みについて

(議長)

それでは、建設予定地の絞り込みについて、はじめに前回第9回の選定会議において、再度調整、あるいは確認する事項について、資料を準備いただいていますので、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

それでは「建設予定地の絞り込みについて(案)」ということでカラーの資料を用意させていただきました。前回の選定会議でご指摘いただいたとおり、これまでの審議をもとに、3市村の参事、課長にもご確認いただきながら、八方、新行、源汲の3か所の候補地において差の付く項目を一覧表として整理させていただきました。課題あるいはリスクを抱えている項目については赤色、注意もしくは配慮が必要な事項については黄色、そのような心配の無い項目についてはメリットとして青色で整理をしています。まず、八方候補地ですが、断層に近接という部分で赤色、強震動の項目で、極めて強い揺れの可能性ありということで黄色、希少植物に関しては湿性植物に配慮が必要ということで同じく黄色に整理してあります。また、動物(猛禽類以外)への配慮という項目で、配慮が不要ということで青色、冷却水の確保の項目で、すでに地下水を活用しているため同じく青色としています。

次に、新行候補地ですが、活断層については、後で説明をさせていただきますが、括弧書きで「稲尾沢断層に近接」を記載しております。色を付けてある部分は、冷却水の確保の部分で、地下水の採取が不可ということで赤色、動物(猛禽類以外)への配慮の項目では、「水辺、湿地環境があり、希少生物の生息に注意」、希少植物の項目で、「湿性植物に配慮が必要」というご指摘をそれぞれいただいていますので、配慮が必要ということで黄色となっています。

源汲候補地については、活断層について、変位の影響は受けないということで青色、水害・斜面災害の可能性については、洪水時に浸水の可能性があるということで、これまでの議論では、盛土により回避が可能ということでしたが、配慮が必要と整理し、黄色としています。その下の、動物(猛禽類以外)への配慮についても、川沿いの回廊に配慮が必要とのご指摘をいただいていますので、同じく黄色、希少植物は配慮が不要ということで青色、冷却水への配慮についても、採取可能であることから青色としています。なお、その下の集計欄には、3か所それぞれの赤、黄、青の項目数を参考に載せてございます。

インフラ整備、経済性の欄には、これまでに試算した概算費用をまとめ、その下の合計欄に、用地を購入した場合と、賃貸借した場合の合計費用をそれぞれ記載しています。金額については第7回でお示したものと同額で、最も費用の少ない新行候補地を黒枠で囲ってあります。その下には、地域振興について同様に記載しております。

その下の追加項目については、これまでの議論を踏まえ、新たな評価軸になりうる項目について、3市村の参事、課長とも相談しながら4つ記載させていただきました。1番目は景観への配慮ということで、3市村いずれも観光地であるという地域特性を持つことから、森林の伐採面積を平方メートルでそれぞれ表記してあります。2番目は、アクセスルートの住民利用ということで、前回の議論に挙げた直接搬入される住民に対する配慮について整理を試みたものです。事務局と3市村の参事、課長の協議の際は、平坦か坂道か、あるいは積雪量や除雪の状況といった要素についても意見が出ましたが、ここでは、新行候補地について、第8回の審議にありましたように想定ルートを利用いただくように誘導策は講じるとしても、稲尾沢沿いの狭隘な県道小島信濃木崎線の利用の可能性が残ることに

ついて、不安が残るということで記載してございます。それから3番目、施設建設への課題事項ということで、新行候補地について、先日までの検討経過から、地盤支持力に課題が残る可能性について記載してあります。4番目の最下欄の「費用額」については、リスク回避のために必要な費用ということで、新行候補地には、地下水の採取が不可ということで、冷却水の水道料として20年間で必要な6,960万円、源汲候補地には、洪水時に浸水の可能性があるということで、そのための対策費用として、3,800万円を記載しております。

この他、それぞれ参考資料について担当より説明いたします。

(事務局)

参考資料1は、前回、新行候補地について杉本先生が「希少生物の生息に注意」と追記された理由について聞き取った内容を口頭で説明しましたが、昨日、杉本先生より文書で回答が届いたので、それを転記したものです。内容としては、前回のとおり、トンボ等の昆虫類やサンショウウオ、カエル等の両生爬虫類が生息している可能性があるという理由です。

参考資料2については、必要とされる冷却水の量について、現在稼働している環境プラントと白馬山麓清掃センターの使用量を比べて大きな差があったことから、再試算した内容をまとめたものです。資料の中ほどの点線で囲った部分になりますが、これまでは水の使用量について、同規模のストーカ炉を設置しているエコパーク寒川の年間使用量から、単純に一日当たりの平均使用量を求め、焼却能力から試算しておりましたが、稼働日を考慮して、実際に稼働している日にどの程度必要かということで再計算したのが、その下の太字の部分になります。併せて、表にありますように、エコパーク寒川の他に、同規模のストーカ炉を持つ山県市クリーンセンターの使用実績、相馬市で今年8月に稼働した新しい施設のメーカー設計値を加えて再計算した結果、稼働日における焼却能力1トン当たりの水の使用量は3施設の平均で、1.46立方メートル必要という結果になりました。したがって、日量40トンの施設では、稼働日に58.4平方メートル、約60トンの水が必要という結果になりました。

続いて参考資料3です。源汲候補地の浸水対策として盛土が必要な面積を、ごみ処理施設基本計画の必要敷地面積をもとに再検討し、6,000平方メートルから5,000平方メートルに変更した場合の平面図と断面図になります。裏面に内訳がありまして、浸水対策に伴う追加費用として再度積算を行ったところ、前回に比べ400万円減少し、3,800万円となりました。

続いて参考資料4になりますが、今回の会議に向けて、3市村とともに候補地に関する資料を再点検したところ、新行候補地に稲尾沢断層という断層が近接しているという文献があるということで、急遽、廣内先生に確認した内容をまとめたものです。2ページに美麻村史に掲載されている地質図を付けてあります。新行候補地の位置は、図上の8番から14番の間になりますが、その下に赤字で稲尾沢断層と書かれており、たしかに近接しておりました。そこで、その影響について学識経験者の廣内先生に相談させていただいた内容が1ページの照会結果です。記載のとおり、日本の活断層等の文献資料への記載がないこと。また、航空写真をご確認いただいたところ、活断層の形跡は認められなかったこと。地質調査所発行の地質図にも記載がないこと。以上の3点から、少なくとも活断層ではなくて、地質断層としてもその存否が明確ではないのではないかと回答をいただきました。また、村誌に明確な記載がない以上、考慮する必要はないのではないかとのご指摘でした。

説明は以上です。

(議長)

ただいまの説明について何かありましたらお願い致します。

前回の審議を受けて、3つの候補地について差の付く項目に色を付けていただいています。

追加項目の「景観への配慮（森林の伐採面積）」、「アクセスルートの住民利用」、「施設建設への課題事項」の3つについては、色分けの評価をしていませんが、最下欄の「費用額」に記載の、新行の冷却水の水道料と、源汲の浸水対策としての盛土の費用については、それぞれ、「冷却水の確保」、「水害・斜面災害の可能性」の欄で色分け評価をした内容について、参考に金額を記載いただいています。

いかがでしょうか。

(小谷村長)

最下欄の「※（米印）」の番号が逆ですね。

(議長)

そうですね。「※1」を「※2」に、「※2」と「※1」にそれぞれ修正ください。

(事務局)

はい。

(議長)

「※1」の冷却水水道料については、稼働日数を何日と見込んであるのでしょうか。

(事務局)

1日当たり60トンに、月当たり30日を掛けています。

(議長)

先ほどの参考資料2では、稼働日の使用量が58.4トンという説明でしたので、年間360日で見込んでいるとすれば、従前の平均日量の40トンで計算すべきではないでしょうか。そうすると、この数字は6,960万円よりも小さくなります。または、稼働日の使用量として日量60トンを用いるならば、360日ではなく、新しい施設の稼働日数を掛けることによって実際の水道料金が推し量られるということではないでしょうか。

(事務局)

ごみ処理施設基本計画では、補修整備に必要な休止日なども含めて、年間約85日は施設を停止するとしていますので、280日に置き換えて再計算させていただきたいと思います。

(議長)

では、そのように修正をお願いします。とはいえ、全面的に水道水に頼らねばならないとすれば、相当の水道料金が発生するということになりますね。

(事務局)

再計算の結果、約5,410万円となります。

(議長)

わかりました。

後で構いませんので、もう一度内容を確認のうえ、資料の差し替えをお願いします。

(事務局)

はい。

(議長)

これまで、経済性の中に水道料金は入っていなかったのですね。

(事務局)

はい。これまでは、6か所いずれの候補地であっても、設備の規模が同じであることから、ほぼ同額ということで、経済性の比較対象としていませんでした。しかし、前回、より詳細な比較検討が必

要とのご意見をいただいたことから、全量を水道水で賄う場合の水道料を参考に試算したものです。仮に、八方と源汲の両候補地においては全量を地下水で賄えるとすれば、20年間でこれだけの差が付くということです。

(議長)

わかりました。

それから、「冷却水の確保」の欄は、取水不可ということで赤色になっていますが、課題・リスク事項ではなく、注意・配慮事項(黄色)という整理ではないのでしょうか。

(事務局)

新行候補地については、簡易水道から取水して欲しいとの地元要望もありますし、候補地近くに水道水源があるということで、地下水を活用することは考え難いと思います。

(議長)

わかりました。

(事務局)

先ほど、参考資料4で説明しました稲尾沢断層について、この案では、新行候補地の一番上に括弧付きで表示をしておりますが、その扱いについて議論いただきたいと思います。

(議長)

廣内先生からは村誌に明確な記載がない限り、考慮する必要はないとのご指摘をいただいていますので、「近接するとされる稲尾沢断層は少なくとも活断層ではない。」と記載するか、もしくは、記載しないかのどちらかだと思いますが、いかがでしょうか。

(小谷村長)

学識経験者に活断層ではないとご指摘いただいている以上、「活断層の状況」の欄に記載する必要はないと思います。源汲候補地と同様に変位の影響を受けないという整理でいかがでしょうか。

(議長)

では、そのように整理したいと思います。よろしいでしょうか。

(白馬村長)

はい。

(議長)

では、新行の一番上の欄も青色ということで、下の集計欄も0(ゼロ)から1に修正願います。

(小谷村長)

八方候補地の活断層の欄で、「八方東縁断層に近接」ということで、課題・リスク事項(赤色)に整理されていますが、廣内先生からは、活断層直上でなければ対策が可能とご助言いただいているので、注意・配慮事項(黄色)とすべきではないでしょうか。

(事務局)

廣内先生からは「活断層がどのくらい近接して、どのくらい撓曲帯(とうきょくたい)の範囲にかかるかどうかについて、しっかりと調べる必要があるのではないかと」のご助言をいただいていますので、課題として整理しました。

(小谷村長)

建物を撓曲帯にかからないように候補地の西側に寄せることにより、リスクを回避できるという指摘もいただいていたのではないのでしょうか。

(事務局)

たしかにリスクは小さくなるという説明でしたが、影響は受けるということで整理しています。

(白馬村長)

このような記載ですと、決定的な要因だと誤解されてしまう恐れがあるのではないのでしょうか。

前回の発言にあったように、ひとつの項目のみで判断するのではなく、幾つかの要素から総合的に結論を出すべきではないのでしょうか。

(議長)

赤色に限らず、色分けた欄の数で判断するわけではないのですが、たしかに、赤色の2か所については、色の性格ということもありますが、この一覧表をパッと見たときに強い印象を与えますね。廣内先生から、活断層については、影響は受けるとしても建物の耐震構造などを担保することでクリア可能とのご指摘もいただいていますので、例えば、課題・リスク事項(赤色)ではなく、注意・配慮事項(黄色)と整理してはいかがでしょうか。

(事務局)

絞り込まれた3か所の候補地については、地域振興策の概算費用についても倍以上の差はありませんし、配慮すべき事項に取り組むことで、いずれも早期に建設は可能だと考えます。甲乙付けがたい状況でしたので、よりリスクの少ない候補地を選定するという考え方から、あえて差のある部分を強調した資料を用意させていただきましたが、決定的な要素によって決定されるわけではないので、そのような表現は避けたいと思います。

(議長)

そのように考えると、やはり、活断層直上で変位を受ける可能性のあるわけではないので、決定的なリスクと誤解されないように、赤ではなく、注意・配慮事項(黄色)に置き換える方がよいですね。

(小谷村長)

廣内先生からのご助言いただいた内容を考えると、配慮は必要ですので、それでよいと思います。

(白馬村長)

それで構いません。ただ、活断層は大きな要因だと考えますが、それだけで絞り込むというのは問題があると思います。

(議長)

新行候補地の「冷却水の確保」の欄についても、地下水が採取不可ではあっても、現段階の水道水源には300トン近くの余水力があるという話でしたので、水道料金は掛かりますが、これも赤(課題・リスク事項)ではなく、黄色(注意・配慮事項)と整理してはいかがでしょうか。

(事務局)

施設の稼動にとって冷却水の確保は必須ですので、水道水のみにも頼るのではなく、地下水の確保が可能なが重要な要素であると考えて整理しました。

(小谷村長)

たしかにそのような議論もありましたが、水道料金が掛かることについては、最下欄に水道料として記載いただいているので、運営経費に含めて議論すべきで、黄色(注意・配慮事項)としてよいのではないのでしょうか。

(議長)

先ほど、約5,400万円に修正いただいた水道料については、これまでは、いずれの場所に立地しても同額が必要という前提から経済性の中に含めていませんでしたが、今日までの検討の中で、現実

に地下水の活用によって大幅に水道料を低減できるということから、この資料では、課題・リスク事項（赤色）とし、あわせて水道料を追加項目として最下欄に整理したということですね。

（小谷村長）

インフラ整備の中の「水道敷設費用」の欄、源汲候補地に1, 125万円と入っていますが、これにはボーリングの費用は含めていないのでしょうか。

（事務局）

この欄に記載の金額は、近くの上水道本管から水道管を引いてくるための敷設の費用です。

（小谷村長）

源汲と新行のこの欄には、水道管敷設の概算費用が入っていて、八方はすでに施設があるので0（ゼロ）ということですね。地下水確保のためのボーリング費用や水道料金は含めていないのですね。

（事務局）

はい。

（小谷村長）

しかし、極端な話をすると、地下水を活用できる場合でも、生活用水などは水道水を利用しなければいけないのではないのでしょうか。

（事務局）

水質検査等を行って飲料可ということであれば、掘り方によって地下水を生活用水として使うこともできると思います。

（議長）

これまでの議論を整理しますと、八方候補地の活断層の欄と同じく、新行候補地の「冷却水の確保」についても、リスクと考える必要はないのではないかとということですね。とはいえ、水道水しか確保できない場合に比べ、地下水の確保ができる場合は、ストレートに料金に跳ね返ってきます。

（小谷村長）

他の自治体では、どのように冷却水を確保しているかわかりますか。

（事務局）

エコパーク寒川では水道水の他に、消雪用に井水を使っています。相馬市の新しい施設は工業用水を利用しています。立地によって様々だと思います。

（議長）

それでは議論を整理しまして、地下水が確保できなければ立地が困難というわけではありませんので、赤（課題・リスク事項）ではありませんが、地下水を活用できる場所であれば、コストを削減するためにも地下水を最大限活用するということで、仮に、それが困難であれば水道料金に大きな影響が出ることから、黄色（注意・配慮事項）に一段階引き下げることではいかがでしょうか。

（小谷村長）

それでよいと思います。

（議長）

それでは、八方候補地の活断層と、新行候補地の冷却水の確保の2か所について、赤（課題・リスク事項）から、黄色（注意・配慮事項）に修正をお願いします。そうした場合、課題・リスク事項（赤色）、注意・配慮事項（黄色）、メリット（青色）の数字を拾うと、それぞれ、八方候補地が、2、3、0、新行候補地が1、3、0、源汲候補地が3、2、0というようになりますね。その下の項目ごとのカウントは上から、メリット（青色）が2、1、3、注意・配慮事項（黄色）が3、3、2、課題・

リスク事項（赤色）は0、0、0で並びますが、いずれもリスクという程度の場所はなかったということで、欄としては3つ残すということによいでしょうか。

（小谷村長）

それによいと思います。

（議長）

そうしますと、ほとんど拮抗していながら、源汲候補地のメリットが3つということで若干の差があるように見えますが、もちろん僅かな差に過ぎないとも言えます。そのようなところを手がかりに絞り込むというのはいかがでしょうか。

（小谷村長）

前回まで議論になっていた収集運搬経費については、どのように扱っていけばよいのでしょうか。それぞれの市村が運搬経費を負担するという原則ですが、絞り込みに当たって、そのあたりを整理していかなければ先に進まないと私は考えています。

（事務局）

ごみ処理施設基本計画では、建設費や維持管理費が掛かることから、中継施設は作らないと定めておりますが、3市村の地域が南北30kmに及ぶため運搬距離が長くなること、また、直接搬入の多い地域特性から、「必要に応じて、各市村において、運搬車両の待機所（積替所）を設ける等、住民の利便性に配慮すること」との記載もありますので、新施設の周辺への交通に対する影響をできるだけ低減するためにも、運搬車両の削減、運搬の共同化についても、今後、3市村で具体的な協議を進め、経済的な負担を軽減していきたいと考えています。

（議長）

収集運搬経費については、具体的な方法は今後の検討ということですが、収集、あるいは運搬経費についてコストダウン、効率化を図るということですね。

（白馬村長）

これまでの協議の中でも、3市村がお互いに折り合いの付けられる適地を選択しましょうということを進めてきました。しかし、収集運搬経費については、いずれも候補地であっても、費用の増加は避けられないと思いますし、1トン当たりの単価も差が出てしまいますので、直接の判断材料とせず、それぞれの負担を出来るだけ軽減する方法を協力して検討していくということによいのではないのでしょうか。

（議長）

そうすると、これまで、経済性の観点から運営経費に含めて試算してきました収集運搬経費について、どのように整理すべきでしょうか。運搬距離として評価するといった議論もありましたが。

（小谷村長）

直接の判断材料としないことには賛成ですが、これまで経済性に含めて検討してきた項目ですので、その取扱いについて何らかの方向性を結論として出しておく必要はあると思います。

（白馬村長）

以前も、費用負担を軽減するためのアイデアについて発言がありましたが、今後、車両の削減、運搬の共同化などの検討を進めていくという結論はどうでしょうか。実際は、建設予定地が決まってからでないと、具体的な検討ができないので、結論と言えるかどうかわかりません。

また、選定会議の審議については、可能な限り公開ということを進めていますし、当然情報公開の対象になりますので、当初の項目に載っていない要素や、選定以外の審議内容であっても結果報告に

は記載すべきだと考えます。

(議長)

これまでの配布資料の中には、その後の審議によって内容を修正した部分もありますし、その際には、修正の理由も明記していました。収集運搬についての考え方は、選定会議の中でも何度も議論を積み上げていますので、直接、候補地の選定や立地適性に反映されないとしても、選定会議の審議結果の中に盛り込んで整理してはどうでしょうか。

(白馬村長)

それでよいと思います。

(小谷村長)

ひとつだけ確認しておきたいのですが、公表した後、スムーズに建設に向けて進めることについては大丈夫でしょうか。白馬山麓清掃センターでは、新しい施設の稼働を見込んで、今は年間9千万円の維持費で何とかしていますが、この時期が遅れると、1億数千万の維持管理費が必要となるので、くどいようですが、それだけは心配です。

(議長)

もちろん、新施設にできるだけ早く移行していきたいというのは3市村共通の願いですし、維持補修費が急激に伸びて行くという状況は大町市の環境プラントについても同じですので、いずれの場所に決まったとしても、円滑に調整を進め、できるだけ早く建設することは広域連合の課題であると同時に、地元となった市村の責務であると考えます。今回、地元の理解を前提とした手法を採用したところ、6か所以外に推薦が無かったわけですので、地域の皆さんもこの6か所の中から選ばれるということについては既にご理解いただいていると思います。そのような広範な理解のもとに立って、周辺住民の皆さんにもご理解をいただけるよう努力していかなくてはいけないと思います。

その他にご発言ありますか。

(白馬村長)

運搬距離については、建設予定地決定の後に、それぞれの実状にあった配慮は必要と思います。また、学識経験者の皆さんのご助言だけではなく、最終的な段階ですので、例えば、景観やアクセスルートの住民利用など、住民感情に対する配慮ということも必要かと思います。

(議長)

景観を評価の対象として優劣を論じるのは非常に難しいと考えます。以前の話になりますが、例えば、白馬村の飯森が候補地とされた時には、観光地である白馬村にはごみ処理場はいらないといった極論もありましたし、西側にそびえる白馬三山を直接遮る心配は比較的少ないにも関わらず、そうした心配もいただきました。逆に、仮に大町市内に決まったとしても、観光地である白馬、大町の入り口ではないかといったご意見も出ないとは限りませんので、景観は非常に重要な要素ではありますが、実際にそれをどのように評価するのかは非常に難しい問題だと思います。ただ、現在残っている3か所の候補地については、いずれも周辺の樹木を残すなどの配慮を行うことで、景観に相当大きな影響を与える恐れはないと思います。また、今回の追加項目では、森林の伐採面積のみで評価していますが、具体的な影響を多角的に捉えているわけではありません。実際の建設に当たっては、建物の配置や外観なども含めて考慮しなくてはいけないと考えますが、いかがでしょうか。

(白馬村長)

優劣付けがたいことは、重々承知していますが、意見集約が出来るような方法がないかと思って発言しました。もうひとつの、アクセスルートの住民利用については新たな視点にならないでしょうか。

(議長)

これまでに、何度か住民にとっての利便性という視点についてご意見をいただいておりますが、直接搬入される住民にとっては、八方、源汲の両候補地が不安が少ないということになると思います。

(小谷村長)

学識経験者からの留意事項については、注意・配慮事項(黄色)が少なく、メリット(青色)が多いということで評価することは可能だと思いますが、経済性についてはどう整理すべきでしょうか。資料の概算費用の合計では、買い取りでも、賃貸借でも新行候補地が一番安いとなっておりますが、収集運搬費を評価の対象から除くと、ほとんど3か所の差は無くなりますし、今回、追加項目に挙げた、新行の冷却水水道料や源汲の浸水対策費用を考慮しても大きな差はつきません。

(事務局)

先ほどの議論の中で、収集運搬費を直接の判断材料から除くというご意見がありましたが、そのように扱えば、運営経費のほとんどを収集運搬費が占めていましたので、残りは僅かで、3か所の数字も大きく違いません。したがって、経済性による評価といえますか、絞り込みについては、初期経費によって6か所から4か所に絞り込んだ時点で終了していたと考えるのが自然ではないかと思えます。

(議長)

たしかに、運営経費から収集運搬費を除くと、桁が2つほど違ってしまいますね。だとすれば、経済性で再度比較したところで、初期経費で比較したこととほとんど変わらない結果となりますが、いかがでしょうか。

(白馬村長)

運営経費から収集運搬費を除くことは賛成です。経済性で差が付かないのであれば、他の要素で判断するしかないと思います。

(小谷村長)

メリットが多いということは問題ないのですが、注意・配慮事項(黄色)については、配慮すればクリアできる項目ということなので、例えば、希少植物についても、移植等によって対応できるというお話でしたし、浸水対策も盛土でクリアできるため、経済的に解決できる内容です。その点をどのように整理するのか考えなくてはいけないですね。

(議長)

ひとつの方法として、7つの視点という原点に戻って評価をするならば、防災という観点では、3か所で差が付く項目として、活断層、強震動、水害・斜面災害の3つが挙げられていますが、いずれもメリット(水色)と整理された、新行候補地をメリットが多いと判断できると考えます。同様に、自然環境にも「動物(猛禽類)への配慮」と「希少植物」の2項目がありますが、水色(メリット)の数では八方と源汲が1つ、新行が0(ゼロ)ですので、八方と源汲の両候補地をメリットが多いと考えるか、いずれも黄色(注意・配慮事項)があるので、メリットが多い候補地は無いと考えることができます。インフラ整備については、「冷却水の確保」の欄から、八方と源汲にメリットがあり、追加項目では、「景観への配慮(森林の伐採面積)」では最も面積の少ない新行、「アクセスルートの住民利用」では課題の無い八方と源汲、その下の「施設建設への課題事項」では地盤支持力に課題の無い八方と源汲、最下欄では費用負担の無い八方候補地をそれぞれメリットがあると評価するというのはいかがでしょうか。やや機械的な方法ですが、経済性による評価を除くという前提で、いずれの候補地も十分に建設予定地としての適性を備えていますので、デメリットではなく、メリットを拾ってい

く方法です。

(小谷村長)

最下欄は、それぞれ色の付いた部分に関連した金額を再掲しただけですので、2重に評価することはないと思います。

(白馬村長)

同感です。上の要素についてメリットを抜き出すことはよいですが、問題は追加項目の扱いだと思います。先ほどの議論からも、森林の伐採面積だけで景観の配慮について評価するのは難しいと思います。

(小谷村長)

そうですね。実際の伐採面積も、生活環境影響調査の結果や、近隣の住民の皆さんの声も聞きながら、設計の段階で決まってくるのではないのでしょうか。

(議長)

追加項目のうち、残りのアクセスルートの利便性と地盤支持力については、いかがでしょうか。

(小谷村長)

新行候補地の県道小島信濃木崎線については、以前、学識経験者からも指摘いただいたこともありますし、小谷、白馬両村にとっても直接搬入される村民の皆さんがこのルートを利用する可能性もありますので、重要な要素だと思います。

(白馬村長)

残り2つの項目は評価軸になりうる要素だと思いますが、当初の7つの視点に含まれていないので、どのような理由で判断材料に挙げたのか、選定過程の整理の中に記載する必要があると思います。

(議長)

ここまでの整理をしますと、3か所からの絞り込みについては、経済性の評価は用いないということがまずひとつ。それから、学識経験者からいただいたご指摘や、これまでの議論を整理したうえで、3か所で差のある項目について、それぞれメリットの多い、言い換えますと、注意・配慮事項(黄色)の少ない、あるいは無い項目を抜き出して比較するということがよいのでしょうか。

(小谷村長)

はい。

(白馬村長)

はい。

(議長)

そのように整理しますと、防災の観点で新行、自然環境で八方と源汲、あるいは該当なし、冷却水の確保で八方と源汲、追加項目では、アクセスルートの住民利用で八方と源汲、地盤支持力で八方と源汲が、それぞれメリットがある、あるいは注意・配慮事項(黄色)や課題が無い、または少ないと評価できますが、このうちどれを新しい評価軸とすべきか、あるいは残った要素からメリットの最も多い候補地を抜き出すという方法もあるかと思いますが、いかがでしょうか。

(小谷村長)

1つの評価軸に絞るのは難しいと思います。繰り返しになりますが、浸水対策や希少動植物についてはお金をかければクリアできる内容ですので、メリットがあると言われると難しいところですが、新たな評価軸に残すほど決定的な要素だとは思いません。

(白馬村長)

私も複数の評価軸で判断すべきと思います。希少動植物については、黄色（注意・配慮事項）が含まれている項目について、メリットがあると評価するのは難しいと思いますので、差の付かない項目として整理してはどうでしょうか。

(議長)

源汲候補地の浸水対策については、いかがでしょうか。

(白馬村長)

防災の観点で評価する場合、盛土でクリアできるわけですから活断層の状況と同列に扱うのは抵抗があります。また、八方候補地の強震動についても、耐震強度の確保によってクリアできるのですから、そのような要素で決定した場合に、「対策できると議論していたのになぜなのだ」と地元の皆さんに思われぬか不安が残ります。

(小谷村長)

防災の観点については、やはり活断層の状況が大きな要素かと思いますので、学識経験者から「変位の影響を受けない」と評価いただいた、新行と源汲を不安が少ないということで拾い上げてはどうでしょうか。

(議長)

不安が少ないというよりは、客観的に「活断層に近接しない」と、廣内先生に評価いただいた表現の方がよいかもしれませんね。

それでは、新たな評価軸としては、防災の視点から活断層、インフラ整備の視点から冷却水の確保、アクセスルートの住民利用、地盤支持力の4つが残っておりますが、いかがでしょうか。

(白馬村長)

学識経験者から指摘いただいていた活断層などについては、これまでに絞り込みに必要な情報として整理してきたので、「新たな評価軸」という言い方がよいのかどうか、表現の問題は残るかもしれませんが、いずれも重要な要素だと思います。

(小谷村長)

いずれにしても差のある要素を並べていただいたこの表の中から結論を出す責任があります。これで絞られるのではないのでしょうか。

(議長)

この4つを新たな評価軸に置きますと、メリットがあると評価されるのは、それぞれ、防災の視点から新行と源汲の両候補。冷却水の確保について八方と源汲の両候補地、アクセスルートの住民利用については八方と源汲の両候補地、地盤支持力については、八方と源汲の両候補地という評価になりますが、いかがでしょうか。

(小谷村長)

それぞれ新たな評価軸として、総合的に評価するということですね。

(議長)

はい。両村長さんから、ご承認いただければ、ただ今ご議論いただいた内容で、4つの新たな評価軸により1か所の建設予定地を選定することで意見集約させていただきたいと思います。

そうしますと、いずれの評価軸からもメリットがあると評価された源汲候補地が最適地と判断されるということになると思いますが、そのように意見集約させていただいてよろしいでしょうか。

(小谷村長)

はい。

(白馬村長)

はい。

(議長)

それでは、そのように決定させていただきます。

そうしますと、前回の会議でご意見いただいたとおり、新しいリサイクルセンターについては、北部の白馬村もしくは小谷村に設置ということになりますが、いかがでしょうか。

(白馬村長)

白馬山麓清掃センターの解体費用に循環型社会形成推進交付金の活用を図ることができるため、八方候補地に整備することとしたいと考えますが、どうでしょうか。

(小谷村長)

新しい焼却施設が大町市内ということですので、基本協定書のとおり北部にも整備すべきと考えます。私も八方候補地がよいと思います。

(議長)

それでは、新しい一般廃棄物処理施設の建設に併せて、リサイクルセンターを白馬山麓清掃センターの用地に建設し、解体費用に国の交付金の活用を検討するというところでよろしいですか。

併せて、基本協定書のとおり、現在の大町市の環境プラントの併設しているリサイクルセンターについても、新施設の稼動にあわせて広域連合へ移管することになりますので、南北2か所にリサイクルセンターを設置し、地域全体でリサイクルを推進していくことになりますが、それでよろしいでしょうか。

(白馬村長、小谷村長)

はい。

(議長)

これまでのところで、他に何かありますか。

(事務局)

よろしければ、日程的なこともありますので、審議結果のまとめ方についてご意見をいただきたいと思います。

(議長)

先ほど意見集約しました審議結果をどのように整理していくかということですね。

では、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今お手元にお配りしています「審議結果(案)」が、選定会議の審議結果についての報告書ということで、現在、事務局で作成中のものです。このようなかたちで整理したいと考えておりますので、ご意見をいただければと思いますのでご確認ください。「はじめに」は割愛します。1番は建設候補地の条件、2番は推薦された6か所の候補地、3番は選定会議について、委員、進め方、開催状況について記載のとおりまとめてあります。4番が選定会議での検討ということで、4ページから5ページにかけては、学識経験者のご助言についてこれまで一覧表にまとめて会議資料としていたものを載せてあります。6ページの概算費用の比較については、会議では棒グラフで表していたものを、数字に置き換えてあります。地域振興策については、選定会議で表現を確定していただいた事業主体等の基本

的な考え方などを記載しています。5番の選定については、まず、選定に用いた7つの視点を表で載せ、その下に選定結果ということで、ここは空欄になっております。6番は選定会議の協議経過ということで、(1)では、初期投資における経済性の比較ということで、6か所から4か所が選定されたということ、(2)では、所要の調査等に相当の期間及び費用を必要としない場所として、4か所から3か所が選定されたということに記載しています。(3)については、本日、意見集約いただくまでの内容をもとにこれから整理を行いますが、最初の3行として「3か所いずれの候補地も配慮すべき事項に取り組むことにより、一般廃棄物処理施設の建設は可能と判断される。また、広域連合が実施主体となって行う地域振興策の概算費用でも大きな差はなかった。」という記載をしております。また、7番として、建設場所については、先ほどお決めいただいた内容を書き足して、リサイクル施設の設置について整理してはどうかという提案であります。

(議長)

ただいま事務局より提案いただいた選定経過の整理について、途中段階のもので、空欄の部分もありますが、何かご意見ありますか。

(白馬村長)

リサイクル施設の設置の中で、アの部分は、新しいリサイクルセンターについて書き足すとして、イには大町市環境プラントに併設するリサイクルセンターの移管が入ると思いますが、ウにも、「新設する一般廃棄物処理施設では、住民から持ち込まれた場合を想定し、簡易なストックヤードを整備する」と書かれていますが、中継施設を作るとなると衛生面での管理が大変ということで、作らないことを前提に基本計画を策定した経過があるのですが、造ったものの維持管理についてはどのように考えているのですか。

(議長)

「新設する一般廃棄物処理施設」というのは焼却施設のことですか。

(事務局)

はい。

3市村の参事、課長と相談し、新しい焼却施設においても、仮置きできるスペースを設けてはどうかということです。

(議長)

焼却施設であるならば、そのままごみピットに投入すればよいのではないのですか。

(事務局)

可燃ごみではなく、アルミ缶などの資源物や金属類をお持ちいただいた場合を想定しています。そのような時に、ここでは処理できないので、リサイクルセンターまで持っていくように案内するのではなく、仮置きといたしますか、一旦預かるようなスペースがあった方が利便性が高いと考えます。

(議長)

わかりました。

それでは、「持ち込まれた場合」の前に、何をもち込まれた場合なのか具体的に書いた方がいいですね。表現については、まだまだ詰める必要がありますね。「ストックヤード」ではなく、「受け入れ態勢」と言ったほうが良いのかもしれない。

この内容は3市村の課長さんも一通りご確認いただいていますか。

(白馬村：丸山課長)

一通り確認しています。

(議長)

それでは、今日の議論も踏まえて、表現も含めた内容の検討と検証を行って、必要であれば再度修正をお願いしたいと思います。

それでは、先ほどの6番、「選定会議での協議経過」に戻っていただいて、再度の確認になりますが、(3)の部分に今日の審議内容を追加することで、大町市平源汲を建設候補地とする内容で検討結果の整理をしていくということによいでしょうか。

(小谷村長)

はい。

(白馬村長)

はい。運搬距離の話もありましたが、地域全体で考えて納得のできる結論だと思います。

(議長)

ありがとうございます。

(白馬村長)

この審議結果は、こういったタイミングで公表されるのでしょうか。

(事務局)

今日の審議内容を加えて、再度、案としてお示ししますので、選定会議で内容を確定いただければと考えています。

(議長)

それでは、今日のところは意見集約を終えたという表現に留めておきたいと思います。様々な資料の点検、整理などを終えて、次回の第11回選定委員会で正式に決定したいと思います。

(2) 次回検討委員会について

(議長)

次回の選定会議の日程について、事務局より何かありますか。

[次回の日程について事務局より説明]

(事務局)

それでは、次回、第11回選定委員会を12月21日午後1時から開催させていただきます。併せて、第11回を非公開とするか、公開とするかお諮りしたいと思います。

(議長)

第8回以降、建設予定地の具体的な選定の過程については非公開で開催してきましたが、今回は、事実上の意見集約を終えた後になりますので、公開で行う方がよいと思いますが、いかがでしょうか。

(小谷村長)

公開する場合の資料については、どのように考えていますか。今日いただいた審議結果(案)の内容に今日の議論と結果について書き加えたものが資料として傍聴者にも配布されると考えてよいのでしょうか。

(事務局)

そのように考えています。

なお、7ページの選定結果の部分ですが、地域振興策の内容については、建設予定地となります源
汲候補地の地域振興策についてのみ記載する予定です。

(小谷村長)

わかりました。

(議長)

それでは、次回の第11回選定会議は公開で行うこととします。

(3) その他について

(議長)

予定していた協議議題は以上ですが、今日までの審議内容、あるいは今後の進め方等について何か
ありますか。

(小谷村：横澤課長)

選定会議の審議の中で、直接の判断材料とはなりませんでしたが、広域化に向けて収集運搬経費の
低減を図るという共通認識をいただいたと思いますので、具体的にそのような提言がなされたという
ことを、審議結果の中に盛り込んでいただければと思います。

また、具体的な協議を年度内にも、3市村で協力してスタートさせていきたいと思いますので、よ
ろしくをお願いします。

(議長)

その点については、議事概要と審議結果にしっかりと残すこともそうですが、実際にそれを履行す
ることが何よりも大切ですので、広域化によって施設の運営経費については大きなメリットがあるわ
けですが、運搬経費等についても、これを機に、費用負担を低減できるような努力をしていきたいと
思います。

3市村長の間でも今のご発言は確認しておきたいと思います。よろしいでしょうか。

(白馬村長、小谷村長)

はい。

(議長)

他に何かございますか。

それでは、建設予定地を決定するまでの皆様方のご理解とご協力、また、今度更に具体的な調整を
するうえでの様々な課題に対して相当なパワーが必要かと思っておりますので、今後も一緒に進めてまいり
たいと思いますので、よろしくお願い致します。以上をもちまして第10回選定会議を終わらせてい
ただきます。ありがとうございました。

[終了]